

外国人児童生徒教育推進のための ガイドライン

—外国人児童生徒教育コーディネーターの視点から—

三重県教育委員会

はじめに

県内の公立小中学校に在籍する日本語指導が必要な外国人児童生徒数は、平成24年9月1日現在の調査によると、1,519人となり、前年度同期より18人の増加となっています。一方で、当該児童生徒が在籍する小中学校の数は196校となり、県内の約35%の学校に在籍していることとなります。

このような状況のもと、県教育委員会では、外国人児童生徒教育の一層の充実に向け、3つの段階に応じた取組を進めています。

第1段階は、外国人児童生徒の受入体制を整備することです。そのために、外国人児童生徒の学校への在籍が多い地域で実施されている初期適応教室の取組や学校での受け入れ体制整備に係る取組を支援するとともに、現状において学校への在籍の少ないあるいは在籍のない地域についても、外国人児童生徒教育担当者の研修を開催するなどして、今後の受け入れに向けた支援を行っています。

第2段階は、日本語指導や学校生活への適応指導の充実です。そのために、外国人児童生徒への日本語指導や保護者への通訳等を行う巡回相談員を学校に派遣したり、専門的な知識・技能を有するコーディネーターを派遣したりして、市町教育委員会と連携した取組を進めています。

第3段階は、学習言語としての日本語の習得を支援することです。そのために、外国人児童生徒の学校への在籍の多い地域において、日本語で学ぶ力の育成を目指したカリキュラム（JSLカリキュラム）の実践研究を進めています。

このような取組を一層充実するため、県内のどの学校においても、日本語指導が必要な外国人児童生徒をスムーズに受け入れ、効果的な日本語指導や学校生活への適応指導等を実施していただくための参考資料として本ガイドラインを作成しました。

作成にあたっては、以下の3点に配慮しました。

1点目は、初めて日本語指導が必要な外国人児童生徒を受け入れることになった場合でも、必要な時に必要な情報を的確に入手し活用できるような内容にすることです。

2点目は、これまでコーディネーターが多くの学校を訪問する中で培ってきた専門的な知識・技能をわかりやすく記載することです。

3点目は、これまで県教育委員会が作成してきた日本語指導の手引（①～④）、外国人児童生徒支援コミュニケーションハンドブック（ポルトガル語版、スペイン語版、タガログ語版、中国語版）、外国人児童生徒受入ガイドブックや、市町教育委員会、NPOなどの多様な主体が作成した日本語学習教材やDVD等の教材・資料を効果的に活用できるような内容にすることです。

日本語指導が必要な外国人児童生徒にとって、教育は幸福な生活を実現するために不可欠な「礎」となるものです。10年先を見据える時、自己実現に向け積極的に学ぶ外国人児童生徒は、日本と海外をつなぐ人材、国際社会、多文化共生社会を支える貴重な人材となることが期待されます。また、日本語指導が必要な外国人児童生徒に対する教育は、すべての教職員や外部支援員、NPO等が連携しながら取り組むことにより、同じ学校で学ぶ日本の子どもたちの国際性の涵養や学校におけるきめ細かな教育活動の充実にもつながります。

今後、日本語指導が必要な外国人児童生徒を受け入れる学校はもとより、既に受け入れている学校におかれましても、効果的な日本語指導や適応指導等の一層の充実に努めるため、本ガイドラインを有効に活用していただくことを願っています。

なお、本ガイドラインの作成にあたり、多大なご協力をいただきました国際交流センター日本語教師養成講座講師、伊賀日本語の会テクニカル・アドバイザーの船見和秀先生をはじめ、外国人児童生徒教育コーディネーターの皆様、公益財団法人三重県国際交流財団等関係者の皆様に感謝いたします。

平成25年3月 三重県教育委員会

目 次

はじめに

- 【1】 受け入れに必要な学校体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 【2】 日本語指導が必要な外国人児童生徒の受け入れ・・・・・・・・ 4
- 【3】 外国人児童生徒の日本語能力レベルのチェック・・・・・・・・ 7
- 【4】 在籍学級や取り出し授業での教科指導にあたっての留意点・・・・ 12
- 【5】 外国人児童生徒教育コーディネーターの視点から・・・・・・・・ 19
- 【6】 資料 日本語のテスト
 - ・日本語能力試験N3レベル・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
 - ・日本語能力試験N4レベル・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

※本ガイドラインにおける「外国人児童生徒」という言葉は、外国籍の児童生徒だけでなく、日本国籍であっても文化的背景やルーツが外国にある児童生徒も視野に入れて使用します。

※本ガイドラインの【1】受け入れに必要な学校体制、【2】日本語指導が必要な外国人児童生徒の受け入れ、【4】在籍学級や取り出し授業での教科指導にあたっての留意点の各項目について、ページ右隅にチェック欄を設けてありますので、内容確認の時にご活用ください。

受け入れに必要な学校体制

【1】受け入れに必要な学校体制

受け入れに必要な学校体制はできていますか？

外国人児童生徒を受け入れるために、最初に準備すべきことは、学習環境のハード面（教室・教材・機器など）とソフト面（人員・取り組む姿勢・考え方など）です。一部の人に任せるのではなく、学校全体で取り組むことを念頭に置いて取り組むことが大切です。

◆受け入れに必要な学校体制の整備状況の確認と役割分担

管理職及び市町等の教育委員会担当者

＜チェック＞

- (1) 指導体制・システムを整備する。……………□
- ・いつ、だれが、どこで、何を、どのように行っていくのか適切な校務分掌の計画を立てる。
（例）取り出し授業を想定する場合、何時間目に、誰が、どの教室で、どのような方法で日本語の授業等を行うのかを決定する。
 - ・担任、学年担任、国際教育担当、外部支援員等の役割を明確にするなど、全校的な指導体制等の整備を推進する。
- (2) 指導方針に対し教職員の意思統一を図る。……………□
- ・将来の進路を見据えた指導の方針を立てる。一部の教師・担当者だけの問題ではなく、学校全体で取り組んでいくことを事前に確認しておく。
 - ・指導の主体となるのは、教師であることを押さえる（外部支援員にすべてを任せてしまっはいけないことに留意する）。
- (3) 指導に必要な学習環境を整備する。……………□
- ・日本語指導用の教材*の有無の確認を行う。
※日本語指導用の教材がない場合、公益財団法人三重県国際交流財団作成の『新版 みえこさんのにほんご』、『新版 続みえこさんの日本語』等を入手する。
- (4) 外部支援員を活用する場合、外部支援員のレディネス（母語・日本語能力のレベル・日本語指導の経験・教科指導も可能かどうか等）を把握する。……………□
- ・外部支援員の母語が話せる能力と指導の能力は別であると考え。母語で話すことが、外国人児童生徒の日本語能力を伸ばすことには繋がらないので、指導経験の有無に関わらず、知識や技術について事前の研修及び指導開始後も定期的な研修を行う必要がある。
- (5) 外国人児童生徒巡回相談員や地域のボランティアによる日本語教室・学習支援のスタッフ等を要請する。……………□
- ・県や市町教育委員会に外国人児童生徒巡回相談員等の要請手続きを行う。

- ・近くに地域のボランティアによる日本語教室等があれば、また、学習支援のスタッフ等がいれば連携を図る。三重県には「みえにほんごネットワーク」という地域の日本語教室が所属する組織がある。

外国人児童生徒の指導に直接関わる教員等

(1) 学級担任 □

- ・連絡先を把握する（保護者の携帯電話の番号、勤務先、どの時間帯なら電話に出ることができるか等の確認をしておく）。
- ・外国人児童生徒が実際に通学する拠点となる場所を把握する。
- ・適切な頻度でコミュニケーションが取れる関係づくりを心がける。
- ・生まれてから現時点までの学習履歴を把握する。
- ・外国人児童生徒が理解できる「やさしい日本語（子どもが理解しやすい日本語）」を使う。
- ・外国人児童生徒に係る指導者、外部支援員等との連絡を密にする。
- ・日本の高校入試の概要やかかる費用、進路と職業選択の関係など、日本人家庭であれば把握できている基本情報を入手できていないケースもあることに留意し、それらの情報の発信を心がける。

(2) 教科を担当する先生 □

- ・学習を開始するにあたり、その時点で身に付いている日本語能力及び各教科の理解度、母語の習得状況について把握する。
- ・生まれてから現時点までの学習履歴を把握する。
- ・外国人児童生徒が理解できる「やさしい日本語（子どもが理解しやすい日本語）」を使う授業を心がける。
- ・外国人児童生徒の学習における長所の把握とつまずきやすい学習内容を把握し、つまずきを軽減する手立てを講じる。

(3) 学級担任及び教科担当以外の先生 □

- ・日本語能力及び各教科の理解度、日本語学習の進捗状況、母語の習得状況、進路希望[※]等の情報共有を行う。
- ・学校生活の場面で、外国人児童生徒に対し、指導できる場面を想定し、実践する。
※特に中学校の場合、高校進学に関する情報の共有化を図る。

(4) 外国人児童生徒教育担当者 □

- ・学校内のコーディネーターとして、学級担任・教科担任・外部支援員などと協働できる指導体制を組む。
- ・県や市町教育委員会とのパイプ役として、情報の共有化を図る。
- ・県、市町等で開催される会議・研修会等に参加し、研修で学んだ内容を全体へ還流し、教科指導に生かす。

(5) 日本語指導者（各学校の指導体制により、日本語指導者は、副担任、管理職、外部支援員等様々な場合が考えられるが、指導にあたり以下の点について留意する）・・・・・・・・・・□

- ・指導者の母語の種類に関わらず「日本語指導」を行う場合、原則として、日本語で日本語を教えていく方法（直接法）で行う（母語や学習者が理解できる媒介語の使用は、最小限に留める）。
- ・外国人児童生徒に対する日本語指導の経験がない場合、まずDVD『どこでもだれでも日本語指導 日本語指導の基礎』第4巻「教科指導に結びつく日本語指導」等を視聴するなどし、基礎的な外国人児童生徒に対する指導方法について研修を行う。また、時間に余裕があれば、第1巻～第5巻まで通して視聴する。
- ・日本語教師の有資格者等にアドバイスを求めたり、各種の研修に参加したりして、スキルアップに努める。

(6) 外国人児童生徒巡回相談員等・・□

- ・学校を訪問し、外国人児童生徒の学校生活への適応指導の支援を行う。
- ・外国人児童生徒の生活状況の観察を通して問題点を把握し、学校に対して、その改善や指導方法等の支援を行う。
- ・学校と家庭の意思疎通を図るため、外国人児童生徒の保護者の相談に応じる。
- ・外国の文化や生活についての情報を提供するなど、国際理解教育に寄与する。
- ・訪問校での適応指導等の経過の記録・整理を行う。

※参考資料

- ・『日本語指導の手引き①－受け入れにあたって－』（三重県教育委員会）P 1 参照。
- ・『日本語指導の手引き④－教科学習につながる教材と指導方法－』（三重県教育委員会）P 6 参照。
- ・『外国人児童生徒受入ガイドブック』（三重県教育委員会）P 4 参照。
- ・『外国人児童生徒支援コミュニケーションハンドブック』（ポルトガル語・スペイン語・タガログ語・中国語）（三重県教育委員会）
- ・DVD『どこでもだれでも日本語指導 日本語指導の基礎』4巻「教科指導に結びつく日本語指導」（公益財団法人三重県国際交流財団）
- ・『新版 みえこさんのにほんご』、『新版 続みえこさんの日本語』（公益財団法人三重県国際交流財団）
- ・『新版 みえこさんのにほんご』聴解教材、『新版 続みえこさんの日本語』聴解教材（公益財団法人三重県国際交流財団）

日本語指導が必要な外国人児童生徒の受け入れ

【2】日本語指導が必要な外国人児童生徒の受け入れ

外国人児童生徒の受け入れが決まったら、次のことを行いましょう。

教育委員会での手続きを経て、学校に転入する日時が決定したら、転入前に説明会（オリエンテーション）を行います。外国人児童生徒本人と保護者の疑問に答え、丁寧に対応することで、不安を和らげ学校生活に慣れてもらうことを目的としています。

日本の学校で安心して教育が受けられることをしっかりと伝えられるように、また、保護者の生活状態も考慮し保護者との信頼関係を築く第一歩となるように準備を進めましょう。

◆スムーズな受け入れの第一歩

受け入れが決まってからオリエンテーションを行うまでに準備すること

<チェック>

- (1) 説明時の資料を作成する。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
 - ・日本語の文章には、ルビを付ける。
 - ・校区の地図（配布用）を準備する。学校で使う教材、文房具は、実物をそろえる。

- (2) 各種手続きに必要な書類の準備を行う。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
 - ・家庭と学校をつなぐ資料、緊急連絡カード、口座振替依頼書等を用意する。
 - ・印鑑が必要な場合、事前に連絡をする。

- (3) 母国の教育制度について事前に情報を得る。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
 - ・受け入れる外国人児童生徒が、母国から初めて日本に来る場合、異学年に、入学、編入するケースがある。

- (4) 外国人児童生徒が在籍していた学校から日本語の習得状況等の情報を得る。・・・・・・・・
 - ・日本語指導にあたり、どのような日本語テキストを使っていたかを確認する。
 - ・日本語指導は、誰が、どのような形態で行い、週にどの程度指導していたか。また、日本語の習得状況はどの程度であるかを把握する。
 - ・教科学習は、どのような形態で行い、どのような支援を必要としているか。また、教科学習の習得状況はどの程度であるかを把握する。
 - ・オリエンテーション当日、在籍していた学校の通知表を持ってきてもらうよう保護者に連絡する。

- (5) オリエンテーションに同席するメンバーを決め、時間を設定する。・・・・・・・・・・・・
 - ・外国人児童生徒の健康面・安全面についても、話し合える人を選ぶことが望ましい。
(例えば、養護教諭、生徒指導担当教諭等)

- ・様々な都合により、オリエンテーションの日時が、急に変更になることもあるので、出席者の連絡先を確認しておく。また、保護者には、前日にもう一度確認の連絡をする。

(6) 通訳者*の同席を依頼する。できれば、その方と事前に打ち合わせをしておく。・・・・・・□

- ・日本の学校教育について知識がある通訳者に依頼をする。

※通訳者の依頼先としては、市町教育委員会、県教育委員会、地域の外国人支援を行っているNPO、地域の日本語教室、公益財団法人三重県国際交流財団 [MIEF] などがある。

受け入れの当日に行うオリエンテーションで留意すること

(1) オリエンテーションを通し“わかりやすい日本語”で話す。・・・・・・□

- ・保護者や外国人児童生徒にわかりやすい日本語で話すとともに、通訳者を交えて行う場合も同様に、通訳者にわかりやすい日本語で通訳を依頼する。
- ・自己紹介や様々な事項についての説明時などに、丁寧に敬語を使って話すほど、「わかりにくい日本語」になってしまう場合があるので留意する。
- ・一文を短く（単文で）話す。
- ・文末は「～です。／～ます。」とする。
- ・難しい漢語は言いかえを心がける。

(2) 教育制度等について説明する。・・・・・・□

- ・各地で開催されている「高校進学ガイダンス」の資料等を活用し、日本の教育制度や高等学校等への進学について説明する。
- ・現時点で、外国人児童生徒の保護者が、日本に定住を希望し、日本で子育てを行っていく意志があるか確認する。意志がある場合、適宜、進路に関する情報提供を行う。
- ・ある時点で帰国を考えている場合は、家庭内で母国の言語教育を行うことと、その時点まで、学校にきちんと通わせることを伝える。

(3) 登下校・通学について説明する。・・・・・・□

- ・学区のわかりやすい地図を準備し、登下校について説明する。
- ・集団登校、集団下校を行う理由を丁寧に説明する。
- ・遅刻、欠席の場合、必ず学校に連絡することを伝える。

(4) 所属について説明する。・・・・・・□

- ・所属学年クラスを伝える。
- ・担任の先生や日本語指導や教科指導に関わる人たちを紹介する。

(5) 服装や持ち物について説明する。・・・・・・□

- ・体操服や靴等の値段やそれらの販売店の名称と住所等を伝える。

- ・お菓子を持ってこないことや、水筒にジュースを入れてきてはいけないことなど、学校に持ってきてはいけないもの等について説明する。

(6) 昼食・掃除について説明する。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・□

- ・給食※がある場合は、給食係があることや給食費用及び集金方法等について説明する。
 ※アレルギーや宗教上食べられないものがあるかどうかを確認する。
- ・学校での掃除を児童生徒が行わない国や地域があるので、掃除は児童生徒が行うものであることを伝える。

(7) 学校のきまり・規則について説明する。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・□

- ・マニキュアをしたり、ピアス等のアクセサリーを付けたりして学校へ来ることは禁止されていることなど、その学校のきまりや規則について説明する。

(8) 必要な書類の提出と確認をする。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・□

- ・保護者の勤務場所、連絡先等を記載する「緊急連絡カード」を配布し、記入するように要請する。
- ・就学に必要な費用の援助を受けるための「就学援助申請書」や学校生活の中での事故について医療給付が得られる「独立行政法人日本スポーツ振興センター加入同意書」等について確認する。
 <情報提供として>
- ・外国人登録証から「在留カード」に切り替わったこと等についても確認する。

(9) 外国人児童生徒や保護者に対して、学校案内を行う。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・□

- ・教室、特別教室、トイレ、体育館、職員室等を実際に案内する。

※参考資料

- ・『日本語指導の手引き①－受け入れにあたって－』（三重県教育委員会）
 P 1～4 及び、各項目の該当ページ参照。
- ・『外国人児童生徒受入ガイドブック』（三重県教育委員会） P 4、P 11 以降参照。
- ・保護者への連絡文書例
 （三重県教育委員会）
 <http://ss100051/GAKOKYO/HP/gaikokuzinzidouseito/gaikokuzinzidouseito.htm>
- ・『外国人児童生徒支援コミュニケーションハンドブック』
 （ポルトガル語・スペイン語・タガログ語・中国語）（三重県教育委員会）

外国人児童生徒の日本語能力レベルのチェック

【3】外国人児童生徒の日本語能力レベルのチェック

外国人児童生徒の日本語能力レベルをチェックしましょう。

◆日本語能力レベルを測定する目的

- ①受け入れる時点での日本語能力を客観的に把握する。
- ②日本語指導が必要な外国人児童生徒の各時点での日本語能力を把握し以後の指導に生かす。
- ③生活言語を十分に習得している外国人児童生徒が、教科学習を理解できる日本語能力レベルにあるかどうかを把握し以後の指導に生かす。

◆資料 日本語のテストについて

資料として添付している日本語のテスト（日本語能力試験N3レベル、日本語能力試験N4レベル）は、独立行政法人国際交流基金及び公益財団法人日本国際教育支援協会の日本語能力試験[※]を基に作成したものであるが、外国人児童生徒がその時点で持っている日本語能力の一面を短時間で測定するもので、言語の4技能（話す・聞く・書く・読む）をすべて測定するものではない。

しかし、文字・語彙・文法・読解に関する理解度を客観的に得点として見ることができるので、日本語指導を行う上での一つの目安とすることができる。

※日本語能力試験には、N1～N5の5つのレベルがある。一番易しいレベルがN5で、一番難しいレベルがN1である。試験は7月と12月の年2回実施されている。

N1：幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。

N2：日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。

N3：日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる。

N4：基本的な日本語を理解することができる。

N5：基本的な日本語をある程度理解することができる。

◆資料 日本語のテストの活用について

日本語のテストを実施するにあたっては、取り出し授業などを利用して実施することになるが、テストを受けるにあたり良い環境を準備することに留意することが大切である。

また、例えば、受け入れ時に日本語能力試験N4レベルのテストを実施したのであれば、約半年間は、期間を空けて日本語能力の伸びを確認するとよい。ただし、短期間のうちに『新版続みえこさんの日本語』等を終了したのであれば、その終了時点で日本語能力試験N4レベルのテストを実施し日本語能力の伸びを確認するとよい。

一方、日本語指導を特に必要としていない児童生徒には、日本語能力試験N3レベルのテストを実施し日本語能力を確認し以後の指導に役立てることも有効である。

なお、資料として添付している日本語のテストの解答時間は45分を想定している。

◆外国人児童生徒の日本語能力レベル別の対応

本ガイドラインでは、日本語能力レベルを、日本語能力レベルA、B、C、D、Eの5段階で表示しており、日本語能力レベルA、B、C、D、Eは、日本語能力別の基準について、指導者が簡易的に用いることができる分類である。また、5段階の日本語能力レベルA、B、C、D、Eの記号は、日本語の習得レベルの低い順にAから便宜的に使用している記号である。

本ガイドラインにおける日本語能力レベルAは、ひらがなを読んだり書いたりできないなど、基本的な日本語をほとんど理解できないレベルに相当し、日本語能力試験N5のレベルに達していない状況であることを意味している。

日本語能力レベルBは、簡単な日本語文型を使ってコミュニケーションがとれるレベルであり、基本的な日本語をある程度理解することができるレベルに相当し、日本語能力試験N5のレベルとほぼ等しい状況であることを意味している。

日本語能力レベルCは、生活場面における口頭でのコミュニケーションができていくレベルであり、基本的な日本語を理解することができるレベルに相当し、日本語能力試験N4のレベルとほぼ等しい状況であることを意味している。

日本語能力レベルDは、教科書を読解する能力に少し疑問があるか、ほぼ教科書を読解する能力が身に付いているレベルであり、日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができるレベルに相当し、日本語能力試験N3のレベルとほぼ等しい状況であることを意味している。

日本語能力レベルEは、教科書・テストの問題文を難なく読解することができ、日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができるレベルに相当し、日本語能力試験N3からN2のレベルとほぼ等しい状況であることを意味している。

日本語能力レベルAとその対応

日本語能力レベルA	対 応
<p>A：ひらがなを読めない、書けないレベル／簡単な挨拶程度のコミュニケーションしかできないレベル</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>日本語を学習した経験がないまたは、学習したが身に付いていない。</p>	<p>テキストを用いることと並行して、学校生活の中で使用される語彙や表現、知識などから構成されるサバイバル的な日本語[*]を、場面・状況と組み合わせて、口頭でコミュニケーションができるように指導していく。</p> <p>書き言葉としての日本語の入門として、ひらがな・カタカナ・簡単な漢字の習得に取り組んでいく。</p> <p>読み書きの習慣をこのレベルから身に付けていくことが重要である。</p> <p>ひらがな・カタカナの習得と関連づけて、身の回りに存在する事物の語彙を増やすために、文字カードを作成し、その事物についてのカードを教室に貼っておくことも一つの方法である。</p> <p>また、学校生活の各場面に関連付けた挨拶表現等を口頭で練習し、身に付けさせることも大切である。</p>

^{*}サバイバル的な日本語とは、先生に「危ない！待って！」と言われた時、立ち止まり、周囲に注意をはらうことができたり、トイレに行きたいと思った時、「トイレに行ってもいいですか。」と許可

を求めることができたりするような緊急性が高く、学校生活の中で優先度が高い日本語表現を指す。

日本語能力レベルBとその対応

日本語能力レベルB	対 応
<p>B：日本語初級前半レベル／簡単な日本語文型を使って、コミュニケーションがとれるレベル</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>『新版 みえこさんのにほんご』を活用して勉強している。</p>	<p>指示する日本語が理解でき質問に対して最低限の情報で返答できる場合でも、文字の習得ができていない外国人児童生徒もいる。そのため、ひらがな・カタカナを書くことができるか、読むことができるか等のチェックが必要である。</p> <p>ひらがな・カタカナが定着していない場合、定着していない文字を中心に練習を行う必要がある。</p>
	<p>日本語の取り出し授業では、『続 みえこさんの日本語』等で口頭練習を中心に行い、『続 みえこさんの日本語』れんしゅうちょう等を書くことは、宿題にしてもよい。また、『続 みえこさんの日本語』聴解教材を活用することも有効である。</p> <p>また、習得した文型を使って教科学習との関連を図ることが大切である。例えば、「～は～です。」という文型を習得したのであれば、社会科の学習時に、地図を使って、「ここはブラジルです。」「首都はブラジリアです。」という練習を意図的に行うことが大切である。</p> <p>また、ひらがな・カタカナが定着している場合、日本語で学ぶ力の育成を目指して、日本語指導と教科指導を統合した教科指導型日本語指導に移行していくことが必要である。</p>

日本語能力レベルCとその対応

日本語能力レベルC	対 応
<p>C：日本語初級後半レベル／生活場面における口頭でのコミュニケーションができているレベルである。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>『続 みえこさんの日本語』を活用して勉強している。</p>	<p>実際にこのレベルの日本語能力を持っているか測定するために、N4レベルに相当するテストを一度行ってみるとよい。</p> <p>また、漢字がどの程度、読み書きできるかを確認したり、丁寧体と普通体の二つの文体の使い分けや簡単な敬語表現（尊敬語と謙譲語）の使い分けができるように指導することが大切である。</p> <p>各教科の教科書を読解することにも取り組み、部分的にでも読めて理解できる項目を増やすことが大切である。</p>

<p>N 4 レベルに相当するテスト</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">70点以下</p>	<p>初級前半レベルの日本語能力はあるが、初級後半部分で習得する日本語に弱点を持っている。</p> <p>『続 みえこさんの日本語』の中でどの文型が弱いのかをチェックしながら、初級全体の勉強をブラッシュアップする。</p>
<p>N 4 レベルに相当するテスト</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">70点以上</p>	<p>初級後半終了レベルの日本語能力である。各教科の教科書の中に出てくる日本語を題材に日本語能力を伸ばしていく。N 3 レベルの日本語能力に到達することを目標にすれば、教科書を読解する能力が身に付いてくると思われる。</p> <p>あるいは、小学5・6年生及び中学生で日本語能力試験の勉強を希望する場合は、「N 3 レベル」の問題集などに取り組むのも一つの方法である。</p>

日本語能力レベルDとその対応

日本語能力レベルD	対 応
<p>D：日本語中級前半レベル／日常的な場面での日本語でのコミュニケーションは、支障なく行え、漢字のルビや難解な語彙の言い換え等があれば、教科書が読めて内容を理解できる。学校（学習環境）によっては、特に日本語指導を行わず、在籍学級で教科指導を通じて、このレベルの日本語能力を身に付けた児童生徒もいる。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>『続 みえこさんの日本語』が終了し、特に日本語指導のために取り出し授業等を行っていない。</p>	<p>実際にこのレベルの日本語能力を持っているか測定するために、N 3 レベルに相当するテストを一度行ってみるとよい。</p> <p>語彙量を増やすことが教科学習の理解・定着につながるので、各教科の教科書を読解に取り組み、日本語の語彙ノートを作成し、自力で語彙を増やしていきけるようにしていくことが大切である。</p> <p>また、多様な読み物に触れ、必要な情報がどこにありどこに書いてあるのかを探ることができるスキミングに取り組むことも大切である。</p> <p>さらに、段落構成の仕方、表記方法、書き言葉の表現、接続詞等、作文を書くための具体的な指導を行うことも有効である。</p>
<p>N 3 レベルに相当するテスト</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">70点以下</p>	<p>教科書を読解する能力に少し疑問がある。中学生の場合、教科書が読みこなせていないことが原因で、教科内容が理解できていないことも多い。教科の内容を勉強することと並行して、そこに出てくる日本語の語彙・文型・漢字などを意識的に学習するように指導していく必要がある。</p>

<p>N 3 レベルに相当するテスト</p> <p>↓</p> <p>70 点以上</p>	<p>中級前半レベルの日本語能力である。5・6年生及び中学生で日本語能力試験の受験を希望する場合は、「N 3 レベル」の問題集などに取り組む※のも一つの方法である。</p> <p>※日本語能力試験は、進学、就職に有利な資格であることを伝え、取得を目指すことでキャリアアップを図る。</p>
---	--

日本語能力レベルEとその対応

日本語能力レベルE	対 応
<p>E：日本語中級後半レベル／教科書・テストの問題文を難なく読解することができる。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>在籍学級で各教科の学習に特に支援なく参加できて、内容を日本語で理解できる。</p>	<p>N 2 レベルの日本語能力試験公式問題集※を一度行ってみるとよい。</p> <p>※この冊子には、N 2 レベルに相当するテストは掲載していない。</p> <p>また、習得した日本語を使って、800字程度の作文が書けるように指導したり、国語のテストで点数を取るのが困難な場合、市販の日本語中級レベルのテキストを使って読解に取り組んだりするのも一つの方法である。</p>
<p>N 3 レベルに相当するテストで70 点以上を獲得後、N 2 レベルの問題に取り組み、正答率が70 %以下</p>	<p>日本語中級前半レベルの日本語能力である。5、6年生及び中学生で日本語能力試験の受験を希望する場合は、「N 3 レベル」の問題集などに取り組み、「N 3 レベル」の各項目で弱点を強化することが大切である。</p>
<p>N 3 レベルに相当するテストで70 点以上を獲得後、N 2 レベルの問題に取り組み、正答率が70 %以上</p>	<p>中級後半レベルの日本語能力である。5、6年生及び中学生で日本語能力試験の受験を希望する場合は、「N 2 レベル」の問題集などに取り組むのも一つの方法である。</p>

※参考資料

- ・『日本語指導の手引き②、③－初期適応時の日本語指導と教材－』各項目の該当ページ参照。
(三重県教育委員会)
- ・『外国人児童生徒支援コミュニケーションハンドブック』(ポルトガル語・スペイン語・タガログ語・中国語)(三重県教育委員会)
- ・『新版 みえこさんのほんご』、『新版 続みえこさんの日本語』
(公益財団法人三重県国際交流財団)
- ・『新版 みえこさんのほんご』聴解教材、『新版 続みえこさんの日本語』聴解教材
(公益財団法人三重県国際交流財団)

在籍学級や取り出し授業での教科指導にあたっての留意点

【4】在籍学級や取り出し授業での教科指導にあたっての留意点

在籍学級や取り出し授業での教科指導は、目的と計画を立てて、次の点に注意しましょう。

通常授業の時間に取り出し授業を行う場合、効果を得られなければ、無意味な時間を消費してしまうこととなります。限られた時間で最大限の教育効果を生み出すためには、日々の授業が大切です。常に「何のために、今取り出し授業を行っているのか」ということを念頭に置きましょう。

◆在籍学級での教科指導における授業者（担任・教科担当）の留意点

<チェック>

- (1) 学習内容を使用した教材と共に記録・保存する。……………□
 - ・学習記録ポートフォリオを作成する（ファイルする・ノートに貼る）。
 - ・日付を入れて、時系列で並べる。
 - ・教科学習で使うノートにも、必ず日付を書かせるようにする。

- (2) ターゲットセンテンス※を明示する。……………□

※ターゲットセンテンス：その授業の中で使用される日本語表現の中で、本時の目標に迫り目標を達成するために学習を進める上で特に鍵となる文。

 - ・黒板に、チョークで書いたり、文字カードに書いて貼ったりなど提示の仕方を工夫する。
 - ・明示した文型を意識して使い、教科学習に必要な日本語能力を養成していく。
 - ・発表時やノートに書く時など、クラス全体で、そのターゲットセンテンスを使う。

※その教科が苦手な日本人の児童生徒にとっても、理解しやすい授業になる。

- (3) 板書とプリント（ワークシート）の内容を一致させる。……………□
 - ・板書の文字を書く位置（レイアウト）とプリントで記入する位置が一致していると、見て写しやすい。また、一致していれば、どこに書くのか指示が出しやすくなる。

- (4) わかりやすく的確な指示の出し方を心がける。……………□
 - ・実物や道具を見せながら、何をするのかを伝える。
 - ・重要なところは3回ほど繰り返す。
 - ・指示の出し方は、スモールステップで行う。

- (5) 適切なアイコンタクト※をとる。……………□
 - ・クラス全体にアイコンタクトをとりながら、発話する。

※アイコンタクトの有無は理解度に関係する。

- (6) 学習者が理解しやすいように学習者の日本語レベルに合わせて話す※。……………□

※この技術を「ティーチャートーク」と言う。初級レベルの日本語を指導する時、最も重要な教師の技術である。

- (7) ゆっくり・はっきり・具体的に複数の例を挙げる。 □
- ・早口であると自覚している指導者は、意識的に一段階ゆっくりと話す意識を持つ。
 - ・母音を意識して話す*ようにする。
 - ※日本語は「子音+母音」で音がつくられているため、母音を意識して話すようにすると、明瞭に聞こえる。
- (8) 体系的な支援（足場づくり*）を行う。 □
- ・漢字にルビを付ける・語彙リストを作成する・視覚教材を活用するなどの理解を助ける支援を行う。
 - ・漢字にルビを付けたり、語彙リストを作成したりする等の支援については、日本語能力に応じてスキヤフォールディングの量と質を変化させ、自力で学習できる領域を広げていくことが大切である。
 - ※子どもが自分ではうまく扱うことのできない課題を達成できるようにしたり、理解を発達させたりするのに必要な教師の援助のこと。専門用語で「スキヤフォールディング」と言う。スキヤフォールディングは「理解のための足場づくり、はしご掛け」などと訳されている。
- (9) 日本語指導担当者・担任の先生・外部支援員などと協働する。 □
- ・連携により相乗効果を生むような支援を考えて授業を行う。
- (10) 必要に応じて、板書とプリント（ワークシート）にルビを付ける。 □
- ・初級レベルの外国人児童生徒が参加している場合、板書とプリントには、ルビを付ける。
 - ・明らかに読める漢字は、ルビをはずす。
- (11) 説明を具体的に行う。 □
- ・実物を使う。
 - ・絵や図表を見せる。
 - ・イラストを描く。
 - ・実演して見せる。
 - ・手順を数字で示すなど。
- (12) 文脈指示の「これ・それ・あれ・どれ」等の指示語を極力使わない。 □
- ・例えば、「この前やったあのプリント出して。」というような、「この、あの」等の指示語を使わない。指示語は、外部支援員の翻訳が困難である。
- (13) 日本文化*に関する知識不足に対して指導上の配慮を行う。 □
- ・来日して間もない外国人児童生徒、日本語学習の経験が浅い外国人児童生徒には、特に日本文化についての丁寧な説明が必要である。
 - 季節の行事 <例> 「2月と言えば、節分ですね。鬼に豆をまくのですね。」
 - 日本の伝統的な食べ物 <例> 「お正月に、どんなおせち料理を食べましたか。」

宗教的な面を持つ行事　　<例> 「お彼岸には、お墓参りに行きます。」
「初詣に行きましたか。」

日本社会の習慣・慣習　　<例> お年玉、お歳暮

※日本文化について、「触れてはいけない」のではなく、外国人児童生徒が理解できるような工夫をすることが重要である。「言語を教えること＝その国の文化を教えること」とも言える。日本文化を外国人児童生徒が家で学ぶのは難しいという点を考えて、あえて学校の中で触れる機会を設けていくことも必要である。

◆在籍学級での教科指導における外部支援者の留意点

- (1) 外国人児童生徒の状況に合わせて、母語による通訳支援から日本語による支援に移行していく。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・□
- ・日本語レベルが初級前半の段階では、内容を理解するために机の横で指導者の発話内容、板書内容を全て翻訳して伝えることは必要であるが、このような支援をいつまでも続けることは、日本語で教科学習に取り組むことの妨げになってしまうことがある。
 - ・子どもの日本語レベルを見て、「やさしい日本語（子どもが理解しやすい日本語）」による支援を心がける。
 - ・日本語で教科学習をしていくための具体的な支援を心がける。
 - ・子どもに板書をノートに書くように指示する。
 - ・先生が話し始めたら、聞くように指示する。そのとき、子どもが先生の話に集中できるように支援者は話しかけないようにする。
 - ・児童生徒自身に、教科書・問題集などでわからない漢字にルビをふらせる。
 - ・既習の日本語文型で表現する。
 - ・難解な漢字語彙は言い換える。
　　<例> 「調査の実施」→「調べます」、 「考察を記入する」→「思ったことを書きます」
 - ・初級レベルの子どもには、複文を単文に言い換える。
- (2) 次回の指導に生かすために、外部支援員は板書や発言等をノートに記録する。・・・・・・・・□
- ・授業の中で外国人児童生徒に配布されるプリントを一部もらい、支援するときに活用する。
 - ・子どもに教科の内容を教えるために、外部支援者が教科の内容を理解しておく。
 - ・教科担当の指導者が使っている日本語が、外国人児童生徒にとって理解しやすい日本語になっているのかを分析する。
 - ・理解が難しい点を見つけた場合、気をつけるべき表現・単語・説明方法などを伝え、指導者と外部支援員がお互いに授業改善を図っていく。
- (3) 授業で使われている日本語や教科学習に必要な日本語の表現を分析し、取り出し授業のときに生かす。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・□
- ・先行学習（予習）・復習の両方に活かすことができる。
 - ・文型や漢字を集中的に学習することで、外国人児童生徒が、意欲的に在籍学級での授業に参加できる素地をつくることができる。

◆取り出し授業における留意点

- (1) 在籍学級での学習の先行学習か復習なのかなど、取り出し授業の目的を明確にする。・・・□
- ・初期適応のための日本語指導を行う目的で取り出すのか、日本語のレベルは高いので教科学習の補充を目的に取り出すのかを明確にする。
- (2) 初期適応のための日本語指導を行う場合、効率的に進められるようなカリキュラムを作成する。・・・□
- ・初級前半レベルの日本語指導に時間をかけ過ぎない。
 - ・初級前半レベルの日本語指導と並行して、学年相応の教科学習または、理解度によって学年をさかのぼった教科学習も進めていく。
- (3) 基本的に在籍学級で教科学習に参加している外国人児童生徒に対して取り出し授業を行う場合、各教科の内容理解に軸を置きつつ、教科内容を理解するために必要な高い日本語能力の習得を目指す。・・・□
- ・指導者の役割として、教科書・プリント・問題集の中の日本語表現や語彙を分析する。
- (4) 在籍学級の授業と連携を図る。・・・□
- ・学習記録をつける。
 - ・担任の先生、日本語指導者、教科担当指導者等で相談してどの教科を週に何時間取り出すかを決める。
 - ・取り出し授業を止める時期を判断する。在籍学級に戻した場合は、自律学習を促す。教科担当の指導者は、スキヤフォールディング（理解のための足場づくり）を心がけた授業構成を考え、参加できる時間帯を増やす。
 - ・学校生活の中（授業時、ホームルーム、休憩時間等）で、どのような日本語が理解しにくいのかを観察記録しておき、日本語指導を実際に行っている人に伝え、取り出し授業や入り込み授業に生かす。
- (5) 母語の使用は最小限にする。（適切な場面で適切な量で使用する*。）・・・□
- ・日本語で日本語を教えていく方法（直接法）を基本として授業を行う。
 - ・日本語を使うことを通して、帰納法的に理解させていく（児童生徒の母国語（スペイン語・ポルトガル語・中国語など）ができなくても日本語指導はできる）。
 - ・具体的な例文をたくさん発話し、書くことで、日本語の使い方に慣れていくようにする。

※授業を参観する際によく見かけた支援例

外部支援員（日本語を母語としない話者）が『新版 みえこさんのにはんご』を使って日本語を教えていたが、そこで話されているのは90%がポルトガル語だった。母語に頼りすぎては、子どもの日本語能力は伸びない。母語による解説や逐語訳を行うことは、子どもの日本語能力の向上を妨げる場合もあることに留意すべきである。

(6) 初級レベルの日本語指導では、授業における指導者の発話量と学習者の比率は、3 : 7 ぐらいになるように心がける。□

- ・子どもの発話量を増やす授業構成にする。

(7) 外国人児童生徒が、混乱しないように、使用テキストや教材は統一する。□

- ・日本語の取り出し授業を担当する指導者が、その時々のおもいつきにより、使用するテキストやプリントを変えて授業を行ってはいけない。

(8) 見通しを立て計画的に指導する。□

- ・学期ごとの指導計画に基づく日本語指導と教科学習を行う。
- ・学年の終わりには、日本語レベルの判定を行う。
- ・特に、中学生の場合、常に高校入試から逆算して、いつまでに何を習得する必要があるのかを意識して指導にあたる。

(9) 外部支援員にすべての指導を任せっきりにしない。□

- ・主たる指導者は「教員」であり、全員が日本語指導者であることを認識する。
- ・指導計画に基づいた指導になっているかを確認する。
- ・取り出し授業が、無計画でその場しのぎの授業内容になっていないかどうかを確認する。
- ・外部支援員自身の日本語能力があまり高くない場合、使用する日本語に誤用があることについても留意する。
- ・外部支援員には、何をどのように支援してもらうかを明確にした上で、過度な負担を求めないようにする。

※日本語を母語としない外部支援員の学校への関わり方は非常に多様である。日本語指導の経験がない、教科指導に自信が持てない外部支援員に指導を任せてしまうことは、外国人児童生徒の力を伸ばすことにつながらない。

<取り出し授業における具体的なアドバイス>

① 勉強に対する心構えや姿勢について説明する。

具体的には

- ◇持ち物には名前を書く。プリントをもらったら、その場ですぐに名前を書かせる。
- ◇座る姿勢。正面を向いて座らせる。横向きに座って書くのはいけない。
- ◇足を机の外へ出さない。
- ◇鉛筆は授業前に削っておく。勝手に立ち歩かない。

※子どもとの心理的距離があまりにも近すぎると“なれあいの関係”になってしまいます。信頼感を築きながら、節度ある距離感で指導することが大切です。

② 文字指導は必ず意味のある練習で行う。

ひらがな・カタカナ・漢字の指導で、ひたすら一文字を10回20回と書くのは、字体を覚えるには、有効かも知れませんが、運用能力を身に付ける観点からは、意味のない練習です。また、授業を参観する際によく見た光景ですが、

指導者：「今から漢字テストをするよ。私が言う漢字をノートに書いてね。」「ト」、「ト」

生徒：「??」

指導者：「ほら先週勉強した『ト』だよ。」

生徒：（ノートに『囧』と書いた。）

これもまったくナンセンスなやり方です。

「図書館へ行きました。」のように、短い文の中でどのように漢字が使われるのかを練習しなければ、漢字の学習とはいえません。

③ 「日本語ノート」を作成する。

各教科で使うノート以外に1冊「日本語ノート」をつかって、取り出し授業の時に持参させます。また、在籍学級での授業時も「日本語ノート」にわからない漢字や表現を書き留めるようにさせます。

→ 語彙・表現の獲得は自己管理していく意識付けをしたい。

ある程度日本語能力が身に付いたら（初級終了レベル）、そこからは、語彙力を高めていくことが重要です。

日本語は他の言語に比べ、獲得しなければならない語彙数が極めて多い言語です。

小学6年生（12歳）の段階で日本語を母語とする子どもは、約26,000語を理解語彙として獲得しています。

④ 授業は3部構成で行う。

授業観察に行き、「今日は漢字の勉強をしましょう。」と子どもに提案し、45分間ずっと漢字だけを学習している姿を見ました。同じスキルだけを使う言語学習では、子どもは飽きてしまいます。日本語の4技能（話す・聞く・読む・書く）を上手く組み合わせ、およそ15分を一つのユニットとして、一コマを3部構成にする指導案を考えるようにします。

※参考資料

- ・『新版 みえこさんのにほんご』『新版 続みえこさんの日本語』（公益財団法人三重県国際交流財団）
- ・『日本語指導の手引き③－教科学習につながる教材と指導方法－』（三重県教育委員会）各項目の該当ページ参照。
- ・『日本語指導の手引き④－教科学習につながる教材と指導方法－』（三重県教育委員会）各項目の該当ページ参照。
- ・『外国人児童生徒支援コミュニケーションハンドブック』（ポルトガル語・スペイン語・タガログ語・中国語）（三重県教育委員会）

～ちょっと一息～

★気をつけたいジェスチャー★

「お金（日本人は親指と人差し指で輪をつくる）」

→ 中南米では、卑猥を意味しタブーである。

「お金」を表したい場合、親指と人差し指を擦り「お札を数える」ジェスチャーで伝える。

「頭をなでる」

→ タイでは仏様を冒瀆する行為であり、タブーである。

外国人児童生徒教育コーディネーターの視点から

【5】外国人児童生徒教育コーディネーターの視点から

日本語教育で使われる知識・技術を取り入れることで、子どもとの交流を通じた学びが生まれます。学校内の「共通言語＝日本語」と捉え、コミュニケーションの場面を増やしましょう。日本語で交流することは、多文化共生社会における「共通語としての日本語」の使い手になることも意味します。

◆ “すべての教師が日本語教師” という意識で

日本語指導を担当している人だけが日本語を教えるのではない。
学校生活のあらゆる場面が日本語を教えるチャンスである。

三重県内どの学校でも、日本語指導が必要な外国人児童生徒の指導を担当する可能性は、非常に高いと言える。(在籍率では、国内で上位である。) 子どもたちにとって、学校は日本語を習得する最大・最良の場所であるという視点に立ち、指導にあたることが大切である。

授業だけでなく、あらゆる学校生活の場面を生かし、日本語の習得につなげていきたいものである。

以下に、具体的な手法を紹介する。

「場面シラバス」「機能シラバス」※の観点から

例えば、教室で、子どもが先生からコンパスを借りるとき、

子ども：×「コンパス。」 ×「コンパス、借りるで。」と発話した場合、

「依頼の表現」を指導する良い機会ととらえる。下記のように、場面にふさわしい「依頼文」を発話させることで、人に何か頼むときは、このような言い方をするのだと経験させてみる。

子ども：○「先生、コンパスを貸してください。」 ○「先生、コンパスを借りてもいいですか。」
テキスト・ノートを使って机に向かわなければ、日本語の勉強はできないという考えは、改める。

※「場面シラバス」とは、「授業」「廊下で」など、目標言語が用いられる場面や場所で使用される語彙や表現、知識などから構成されるものである。例えば、「授業」ならば、そこで何をするか、例えば「手をあげる」「問題を解く」などの(言語)行動が想定される。そして、その(言語)行動に必要な「～の質問に答える」「～について考える」といった文型、「手」「問題」といった語彙、「質問をして理解して、発表する」「解答などを書く」といった言語技能などが、授業場面の下位項目となる。「場面シラバス」では、「場面」や「場所」、つまり、「どこで」に注目している。それに対して、文全体が持つ「意味」や「機能」、つまり、「何のために使われているか」で分類、構成されたものが「機能シラバス」である。「依頼する」「誘う」「謝る」「苦情を言う」などがシラバスの項目となる。

理解の確認

日本語や教科の学習をしているときや教室で連絡事項等について話しているとき、「わかりましたか。」「わかった。(?)」と口癖のように言う人がある。この確認方法を否定するものではないが、頭で伝えた内容を理解したかどうかを、確認したい場合は、質問をすると聴解（リスニング）能力の確認ができる。

<例>〔伝達内容〕

来週の土曜日、6月15日は学校があります。ただし、給食はないので、その日は、弁当が必要です。放課後のクラブ活動はないので、6時間目終了後、速やかに下校します。



先生Q：「来週の土曜日、学校がありますか。」	子どもA：「はい、あります。」
先生Q：「その日は、給食がありますか。」	子どもA：「いいえ、ありません。」
先生Q：「給食がないので、何を持ってきますか。」	子どもA：「弁当です。」
先生Q：「6時間目が終わったら、どうしますか。」	子どもA：「クラブをしないで、帰ります。」

単語の獲得

日本語がまだ初級前半レベルで、学校内にある事物の名前があまりわからない子どもに対して、実物を指しながら、ゆっくり3回（例）「ちりとり、ちりとり、ちりとり。」と聞かせる。

その後で、

先生：「ちりとり。」（リピートを促すジェスチャーをして）

子ども：「ちりとり。」

とその場でリピート練習ができる。

名詞以外の「形容詞」「形容動詞」「動詞」「副詞」も上記のように、導入できる。

周囲の子どもたちへの啓発

日本語指導が必要な外国人児童生徒が学校にいることは、日本人の子どもたちにとって、多文化について学ぶ良い機会である。お互いに学び合う関係づくりができるように、子どもたちを導いていきたいものである。

⇒ 英語以外の外国語に触れ、多様な文化・習慣・価値観に触れることができる。

◆将来に向けて、職業人生を主体的に構想・設計するキャリアデザインを描かせる指導

母語の能力 + 日本語の能力 + 英語の能力 + 多様な文化を理解する能力

⇒ まさに21世紀の世界が求める人材に当てはまる。

将来なりたいもの・やりたいこと・あこがれる職業などを早い時期に、具体的に目標として掲げることができる外国人児童生徒は、高校入試や大学入試で成功につながりやすい。

そのためには、本人の価値観形成が重要である（ただし、保護者の価値観が大きく影響を及ぼすことにも注意が必要である）。

中学生になると、いろいろな面で指導に“難しさ”が出てくる。たとえ、今があまり良くない状況でも、諦めずに勉強を続けることの重要性を説くことが大切である。高校で学ぶチャンスが得られれば、大きく才能を開花させる子どもたちがたくさんいる。学習環境が人間を育てる良い例である。小学校・中学校における中期目標は「高校入試の突破」である。

そのためにも ⇒ 地域で活躍している身近な人の体験談[※]を聞くことが大切である！

※キャリアガイドDVD I・II を活用する。多方面で活躍する外国人の先輩方の声が一番説得力を持っている。クラス全員・学年全体での視聴を勧める。

<コーディネーターの活動をとおして>

三重県内の各地で開催されるようになった「進路ガイダンス」で、高校生・大学生・社会人になった外国人児童生徒の先輩たちが、後輩たちに向けてメッセージを送ってくれます。その中で今でも時折耳にするのが、「あの時もう少し早く正確な情報が欲しかった…」 「最初日本に来た時、まったく日本語がわからず、周囲もあまり助けてくれなかった…」 という声です。

成功を収めている姿の裏で、口に出すのも辛いような苦勞と努力を重ねてきたことに感心すると同時に、外国人児童生徒教育に携わる者にとって、まだまだ取り組むべき課題は多いと感じます。

子どもたちが、どのタイミングで、誰と（どんな教師・支援者と）、どのような形で出会い、関わりを持っていくかということは、その子どもたちの後の人生に大きく影響を与えます。

三重県内（広く言えば日本国内）のどこで学んだとしても、それぞれの子どもたちが希望を持って、学習に取り組み、進路を自らの力で切り開き、自己実現をしていけるように、私たちはこれからも学習環境の整備と改善に努力を重ねていく必要があります。

これから本当の意味での“共生の時代”に入っていきます。「入口（保育所・幼稚園）」での受け入れ、「出口（高等学校等での継続的な支援体制の構築・就職先の開拓など）」を見据えた長い期間に渡る支援が必要になってきています。学校はもとより学校・地域が連携して将来の人材を育てていく発想で、柔軟に取り組んでいくことを考えていきましょう。

最後に、よく言われていることですが、日本語指導が必要な外国人児童生徒にとってわかりやすい授業は、すべての子どもたちにとってわかりやすいものです。ユニバーサルな授業を目指すことで、子どもたちが、日本語能力を伸ばしながら、各教科の内容を理解していく実践が増えていくことを望みます。

※参考資料

- ・『キャリアガイドDVDⅠ～可能性は無限大！～』
- ・『キャリアガイドDVDⅡ～深めよう絆 確かな未来をつくるために～』
(三重県環境生活部多文化共生課)
- ・DVD『どこでもだれでも日本語指導 日本語指導の基礎』4巻「教科指導に結びつく日本語指導」
(公益財団法人三重県国際交流財団)

～ちょっと一息～

★異文化コミュニケーションの分野から★

(1) コミュニケーション・スタイルには、次の二つが存在します(個人差あり)。

◇高コンテクスト・スタイル：状況や背景情報に依存する度合いが高い。「何を言ったかよりも、どのように、どんな状況で言ったか」が重視される。日本を含めたアジアは概ねこのコミュニケーション・スタイルである。

◇低コンテクスト・スタイル：状況や背景情報に依存する度合いが低い。「どのように、どのような状況で言ったかよりも、何を言ったか」が重視される。また、「だいたい」ではなく、数字や日時も明確に説明することも要求される。北米やドイツでは、このコミュニケーション・スタイルである。

(2) 時間の感覚には、

◇P時間(ポリクロニックタイム)：同時に多くの事柄が進行していく。スケジュールよりもむしろ人間関係が重視される。中東・ラテンアメリカ、南ヨーロッパが該当する。

◇M時間(モノクロニックタイム)：一時にひとつの事柄を処理し、課題を遂行することや時間を厳守することが重視される。北欧・アメリカが該当する。

資料

日本語のテスト

【6】資料 日本語のテスト

なまえ： _____

日本語能力試験N3レベル

1 漢字の読み (2点×10=20点)

問題 _____のことばの読み方として最もよいものを、①・②・③・④から一つえらびなさい。

問1 みなさん、算数の(1) 宿題を(2) 忘れないようにしてください。

- (1) 宿題 ① すくだい ② すくたい ③ しゅくたい ④ しゅくだい
(2) 忘れない ① とれない ② やれない ③ わすれない ④ かわれない

問2 ^{つか}疲れたときは、(3) 栄養のあるものを食べて、よく(4) 寝るようにしましょう。

- (3) 栄養 ① ええよう ② えいよう ③ えいよ ④ えよう
(4) 寝る ① ねむる ② ねいる ③ ねだる ④ ねる

問3 行きたい高校に(5) 合格できるように、(6) 努力をつづけていきます。

- (5) 合格 ① ごうかく ② ごかく ③ こうかく ④ こうがく
(6) 努力 ① どりよく ② どりようく ③ のうりよく ④ のりよく

問4 Aさんの家を(7) 訪問する(8) 途中で、ケーキ屋さんに行った。

- (7) 訪問 ① ほうもう ② ほんもん ③ ほんもん ④ ほうもん
(8) 途中 ① よちゅう ② とちゅう ③ とうちゅう ④ よちや

問5 私の(9) 得意な(10) 科目は、理科と体育です。

- (9) 得意 ① とくいい ② とい ③ とくい ④ とおい
(10) 科目 ① けもく ② きもく ③ こもく ④ かもく

2 漢字の表記 (2点×10=20点)

問題 _____のことばを漢字で書くとき、最もよいものを、①・②・③・④から一つえらびなさい。

問1 英語を(1) せっきよくてきに勉強する人が(2) ふえていると思います。

- (1) せっきよくてき ① 積極的 ② 責極的 ③ 債極的 ④ 績極的
(2) ふえて ① 曾えて ② 僧えて ③ 増えて ④ 憎えて

問2 (3) うちゅうについてインターネットで(4) しらべてみましょう。

- (3) うちゅう ① 宇宙 ② 宙宇 ③ 宇宙 ④ 宙字
(4) しらべて ① 語べて ② 調べて ③ 設べて ④ 談べて

問3 私が住んでいる町は、(5) しずかな ところですが、(6) こうつう が少し不便です。

- (5) しずかな ① 浄かな ② 清かな ③ 青かな ④ 静かな
(6) こうつう ① 交桶 ② 校通 ③ 交通 ④ 校迫

問4 道具の使い方を(7) かくにん してから、(8) かんさつ を始めてください。

- (7) かくにん ① 覚認 ② 確認 ③ 確任 ④ 覚任
(8) かんさつ ① 観察 ② 歛察 ③ 観際 ④ 歛際

問5 (9) ちょうほうけい の紙を三 (10) まい ずつ取ってください。

- (9) ちょうほうけい ① 長方形 ② 長方杉 ③ 正方形 ④ 正方杉
(10) まい ① 牧 ② 攻 ③ 枚 ④ 放

3 語彙〔文脈規定〕

(1点×8=8点)

問題 () に入れるのに、最もよいものを、①・②・③・④から一つえらびなさい。

(1) テーブルの上をよく() から、皿をならべてください。

- ① けずって ② かいて ③ ふいて ④ つかって

(2) 8を2で() と、答えは4になります。

- ① わる ② かける ③ たす ④ ひく

(3) 社会科の授業では、いつも() を使っています。

- ① プログラム ② プリント ③ アンテナ ④ ビニール

(4) 台風が近づいているので、住民は() 夜をすごしている。

- ① 不利な ② 有利な ③ 安心な ④ 不安な

(5) 「来週の月曜日、10時に()。」「10時ですね。わかりました。待っていますよ。」

- ① うかがいます ② おまたせします ③ ただいまします ④ おかげさまで

(6) できあがったものを机の上に並べるだけの簡単な() です。

- ① 解答 ② 作業 ③ 荷物 ④ 設備

(7) トムさんの弟は() 性格だ。

- ① めずらしい ② らくな ③ ふかい ④ おとなしい

(8) むかし、むかし、() ところに、おじいさんとおばあさんが住んでいました。

- ① いる ② ある ③ つぎの ④ まえの

4 語彙〔言い換え類義〕

(1点×7=7点)

問題 _____に意味が最も近いものを、①・②・③・④から一つえらびなさい。

(1) サッカーのチームを作るのに、2人不足している。

- ① たりない ② 大きい ③ 多い ④ しかたがない

(2) 国語のテストは、午前9時から開始です。

- ① ふくむこと ② かざること ③ はじめること ④ よぶこと

(3) さまざまな国の人が日本に住んでいます。

- ① ねっしんな ② じゅうぶんな ③ だいじな ④ いろいろな

(4) 辺ABの長さは、辺CDの長さの2倍と等しい。

- ① ただしい ② 同じだ ③ 特別だ ④ ふさわしい

(5) まもなく始まります。そのまま席でお待ちください。

- ① とちゅうで ② はっきり ③ すぐに ④ かならず

(6) このあたりに銀行はありませんか。

- ① 横 ② 前 ③ 後ろ ④ 近く

(7) ヒトシさんとブルーノさんは親しい。

- ① 変わらない ② かまわない ③ ^{なか}仲がいい ④ 頭がいい

5 語彙〔用法〕

(1点×5=5点)

問題 つぎのことばの使い方として最もよいものを、①・②・③・④から一つえらびなさい。

(1) ^{うしな}う

- ① とても寒かったので、手袋を失ってから外へ行った。
② 今日のテストは、10時から失うことになりました。
③ うそをついたために、大切な友だちを失ってしまった。
④ 私の父はおこるとすぐにどこかへ失う。

(2) ^{わりびき}割引

- ① マラソン大会で最後まで走り、足が割引になってしまった。
② 先週の日曜日、トムさんが割引にあったそうです。
③ 算数の文章問題は、割引して考えてみましょう。
④ スーパーでは、夜遅くなると、肉や野菜を割引して売ります。

(3) もよう

- ① きれいなもようのハンカチが落ちていましたよ。
- ② 昨日の運動会は、とてもいいもようでした。
- ③ 6年生の発表は、2時からもようするそうだ。
- ④ 家の用事があるときは、サッカーの練習をもようしています。

(4) 豊かな

- ① 大人になったら、緑が豊かなところに住んでみたいと思っています。
- ② この学校には豊かな本がたくさんあるので、役に立ちます。
- ③ 夏休みの宿題が多かったので、豊かにやることにしました。
- ④ 一日中立っていたので、足が豊かになってしまった。

(5) どんなに

- ① 校長先生が注意をしたので、全員どんなに黙った。
- ② どんなに難しい漢字でも、何回も練習すれば、書けるようになる。
- ③ 社会も理科も、どんなにひどい点数でした。
- ④ どんなにたくさん食べるより、少し運動するほうがいいですよ。

6 文の文法

(2点×10=20点)

問題 つぎの文の()に入れるのに、最もよいものを、①・②・③・④から一つえらびなさい。

(1) アイスクリームがとけない()、冷蔵庫の中へ入れた。

- ① ために ② ように ③ ことに ④ ものに

(2) 大学を卒業したら、通訳()働きたいです。

- ① として ② ばかり ③ なのに ④ おかげで

(3) 行きたい高校に合格するには、勉強する()よ。

- ① かのようだ ② せいです ③ ほかない ④ おかげだ

(4) 日本では、目上の人や先輩に()、丁寧な話し方をします。

- ① 関わらず ② ついて ③ とって ④ 対して

(5) 宿題を忘れた人は、このクラスの決まりで放課後残って、やる()。

- ① からだ ② つもりだ ③ ことではない ④ ことになっている

(6) 今日パソコンで京都の歴史()調べてみましょう。

- ① に関して ② の時に ③ の通りに ④ に際して

(7) このお知らせは外国人 () に、やさしい日本語で書いてあります。

- ① うえ ② たび ③ ごと ④ むけ

(8) この本は読めば読む ()、先が読みたくなってきます。

- ① くらい ② ほど ③ から ④ より

(9) 誰かがいじめられているところを見たら、先生に言う () だ。

- ① なら ② 反面^{はんめん} ③ べき ④ ので

(10) 先生、疲れてきたので、10分 () もらえませんか。

- ① 休んだら ② 休む ③ 休めば ④ 休ませて

7 読解 1

(2点×5=10点)

問題 次の「理科の実験」について書かれた文章を読んで、それぞれの「問」が正しければ○、まちがっていれば×を [] の中に書きなさい。

< 実験 > まず6人で一組の班を作ってください。同じ班の中でAとB二つのチームに分かれて実験を行います。

- ① A・B二つのビーカーに水を200グラムずつ入れます。
- ② Aのビーカーには食塩を5グラム、Bのビーカーには砂糖^{きととう}を15グラム入れて、よくかきまぜます。その後、温度計で水の温度をそれぞれ計^{はか}っておきます。
- ③ Aのビーカー、Bのビーカーをそれぞれガスバーナーの火の上に置きます。
- ④ 置いた時から、3分ごとに、それぞれのビーカーの水温を記録していきます。記録は6回行います。
- ⑤ 6回目の水温を記録すると同時に、Aのビーカーには食塩を20グラム、Bのビーカーには砂糖^{きととう}を35グラム加えます。
- ⑥ ここからは、ゆっくりかきまぜながら、2分ごとにそれぞれのビーカーの水温を記録していきます。記録は5回行います。

問1 30人のクラスで実験を行ったとすると、必要なビーカーの数は20である。

[]

問2 ②が終わった時、ビーカーの重さは、AのビーカーよりもBのビーカーのほうが重い。

[]

問3 ガスバーナーの火の上に置いた時を「0分」とすると、④が終わるのは15分後である。

[]

問4 ⑤が終わった時、AのビーカーとBのビーカーの重さは等しい。

[]

問5 水温の記録がすべて終わるのは、ビーカーをガスバーナーの火の上に置いてから、28分後である。

[]

8 読解 2

(10点)

次の文章を読んで各問に答えなさい。

- [1] このテストに挑戦しているみなさんは、かなり高い日本語能力を身に付けていると思います。
「日本語をどのように身に付けましたか。」という質問に対して、生まれてすぐに来日した人や日本生まれの日本育ちという人は、「自然に身に付けた。」と答えるでしょう。その一方で、小学校の高学年、中学生になってから来日した人は身に付けるのに苦労した人もいます。
- [2] 友だちと遊ぶとき、先生の指示を聞いているときは、何の問題もないけれども、教科書に書いてある文章を読んで理解しようとするとき、テストで答えを書くときは、難しいと感じる人も多いのではないのでしょうか。
- [3] また、家族の人たちと何語でコミュニケーションをしていますか。ポルトガル語・スペイン語・中国語など国の言語ですか。それとも、主に日本語ですか。日本語ともう一つの言語の能力が共に年齢にふさわしい能力にあることを“均衡バイリンガル”と言います。このような状態になるためには、日本語の能力を伸ばしながら、もう一つの言語で読んだり書いたりしていくことが重要だと言われています。
- [4] 日本語のレベルをさらに高めていくには、次の3つのことに気をつけていくと良いでしょう。
①語彙数を増やす。日本語は、他の言語に比べ、覚えなければならない言葉の数が多言語です。
②多様な文章を読むこと。分からない言葉が出てきても、前後の意味から考えながら読んでいく。
③色々な人とコミュニケーションをすることで、丁寧な言葉の使い方を身に付けることができます。
- [5] 二つの言語・文化・習慣などが理解できることは、これからの人生に大きなプラスになっていきます。世界が(注) グローバル化していく中で、まさに「このような人材」が求められているのです。自分の夢を実現するために、これからも勉強を続けてください。

(注) グローバル化：人が国を越えて動き、経済の結び付きが強くなっていくこと。

問1 本文の内容と合っている最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選びなさい。(2点)

- ア：教科書を読んだり、テストで答えを書いたりするとき、日本語は簡単だと感じる人が多い。
イ：家族とコミュニケーションでは、日本語だけを使い、自分の国の言葉は使わないのが良い。
ウ：日本語のレベルを高くする方法の一つは、丁寧な言葉の使い方を身につけることだ。
エ：日本の文化・習慣が理解できなくても、将来日本での生活に困ることはない。

問2 第3段落 [3] の中に「このような状態になる」とあるが、具体的に何を指しているか。最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選びなさい。(3点)

- ア：家族と日本語でコミュニケーションをしていない状態
イ：テスト日本語で答えを書くのが難しいと感じている状態
ウ：日本語と国の言葉の両方が高いレベルで使える状態
エ：国の言葉だけが低いレベルで使える状態

問3 第5段落〔5〕の中に「このような人材」とあるが、具体的に何を指しているか。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選びなさい。(3点)

ア：学校の勉強よりも日本語の勉強が好きな人

イ：自分の国の言葉だけができる人

ウ：もうすでに自分の夢を実現した人

エ：二つの言語や文化が理解できる人

問4 この文章に題名をつけるとすれば、何という題名になるか。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選びなさい。(2点)

ア：二つの言語能力を伸ばす大切さ

イ：世界に存在する色々な言語

ウ：自分の国の言葉を身につける難しさ

エ：日本の文化と習慣

【6】資料 日本語のテスト

なまえ： _____

日本語能力試験N4レベル

文字・語彙

もんだいⅠ つぎの ぶんの ____ の ことばは どう よみますか。

①・②・③・④から いちばん いい ものを ひとつ えらびなさい。

(2てん×8=16てん)

(れい) いま 二時です。

二時 ① にかい ② にじ ③ にふん ④ ふつか

とい1 わたしは ご飯に 肉と 野菜が すこし あれば 十分です。

- | | | | | |
|--------|---------|---------|---------|--------|
| (1) ご飯 | ① ごぼん | ② ごめし | ③ ごはん | ④ ごぼん |
| (2) 肉 | ① ぎゅう | ② ぶた | ③ にく | ④ さかな |
| (3) 野菜 | ① やそい | ② のさい | ③ やつあい | ④ やさい |
| (4) 十分 | ① じゅうぶん | ② じゅつぶん | ③ じゅうふん | ④ じゅうぶ |

とい2 あの 黒い 建物は 市の 図書館 です。

- | | | | | |
|---------|-----------|---------|----------|----------|
| (1) 黒い | ① くらい | ② しろい | ③ くろい | ④ あおい |
| (2) 建物 | ① たでもの | ② けんぶつ | ③ けんもつ | ④ たてももの |
| (3) 市 | ① いち | ② ち | ③ し | ④ ちょう |
| (4) 図書館 | ① とうしょうかん | ② としょかん | ③ とうしょがん | ④ としょうがん |

もんだいⅡ つぎの ぶんの ____ の ことばは、 かんじや かなで どう かきますか。

①・②・③・④から いちばん いい ものを ひとつ えらびなさい。

(2てん×9=18てん)

(れい) きょうは みっか です。

みっか ① 一日 ② 二日 ③ 三日 ④ 四日

とい1 はるに なると この むらには はなみを する 人が たくさん 来ます。

- | | | | | |
|---------|------|------|------|------|
| (1) はる | ① 麦 | ② 奏 | ③ 春 | ④ 青 |
| (2) むら | ① 林 | ② 材 | ③ 社 | ④ 村 |
| (3) はなみ | ① 花美 | ② 花見 | ③ 華見 | ④ 華見 |

とい2 くらく ならないうちに はやく えいがに いきましょう。

- | | | | | |
|---------|------|------|------|------|
| (1) くらく | ① 暗く | ② 明く | ③ 音く | ④ 黒く |
| (2) はやく | ① 日く | ② 阜く | ③ 早く | ④ 臭く |
| (3) えいが | ① 英画 | ② 央画 | ③ 絵画 | ④ 映画 |

とい3 いもうとは いつも いぬの せわを して くれます。

- (1) いもうと ① 妹 ② 味 ③ 昧 ④ 姉
(2) いぬ ① 太 ② 大 ③ 丈 ④ 犬
(3) せわ ① 世語 ② 他話 ③ 世話 ④ 他語

もんだいⅢ つぎの ぶんの ____の ところに なにを いれますか。

①・②・③・④から いちばん いい ものを ひとつ えらびなさい。

(2てん×5=10てん)

(れい) ____を のみませんか。

- ① さとう ② おちゃ ③ ごはん ④ くだもの

(1) きょうは 雨も かぜも つよく、 ____天気でした。

- ① ひどい ② くろい ③ くらい ④ こわい

(2) 今、学生たちは しけんの ____で いそがしそうです。

- ① したく ② じゅんぴ ③ しんぱい ④ つごう

(3) しゅくだいも あるし、____ かぜなので あそびに いけません。

- ① それに ② それでは ③ それで ④ それから

(4) どちらの 店が いいか____から 買しましょう。

- ① まって ② こたえて ③ ならんで ④ くらべて

(5) テーブルの 上に ジュースを ____しまいました。

- ① おとして ② こぼして ③ よごして ④ わって

もんだいⅣ ____の ぶんと だいたい おなじ いみの ぶんは どれですか。

①・②・③・④から いちばん いい ものを ひとつ えらびなさい。

(2てん×3=6てん)

(れい) ここは レストランです。

- ① ここでは シャツや くつを かいます。
② ここでは ほんや ざっしを かいます。
③ ここでは カレーや アイスクリームを たべます。
④ ここでは さんすうや りかを べんきょうします。

(1) 山田さん いがいは みんな しけんを うけました。

- ① 山田さん だけ しけんを うけました。
② みんな しけんだけ うけました。
③ 山田さん だけ しけんを うけませんでした。
④ 山田さん しか しけんを うけませんでした。

(2) しゅくだいは きょうじゅうに だして ください。

- ① しゅくだいを きょう ださないで ください。
- ② しゅくだいを きょう かえる ときに だして ください。
- ③ しゅくだいを じゅぎょうちゅうに だして ください。
- ④ しゅくだいを きょう かえるまでに だして ください。

(3) 日本へ 来てから、かんじが 読めるように になりました。

- ① 日本へ 来る 前は かんじが 読めました。
- ② 日本へ 来る 前から かんじが 読めました。
- ③ 日本へ 来る 前は かんじが 読めませんでした。
- ④ 日本へ 来る 前も かんじが 読めませんでした。

文法・読解

もんだい I ____の ところに なにを いますか。

①・②・③・④から いちばん いい ものを ひとつ えらびなさい。

(2てん×15=30てん)

(れい) あれ____ ほんです。

- ① へ ② は ③ を ④ に

(1) 友だちと やくそくした 時間 ____ おくれて しまいました。

- ① を ② が ③ に ④ で

(2) ブラジルは 日本 ____ 人口が 多いです。

- ① ほど ② と ③ より ④ も

(3) この 魚は 日本語で なん____ いますか。

- ① か ② を ③ に ④ と

(4) れいぞうこに ミルク____ ジュース____ が 入れて あります。

- ① や/や ② とか/とか ③ たり/たり ④ も/も

(5) あと 5分____ テストが 終わります。

- ① に ② から ③ で ④ まで

(6) しゅくだいは 金曜日____ 出して ください。

- ① まで ② だけ ③ までに ④ ぐらい

(7) この ガムは いちごの 味____ します。

- ① の ② で ③ が ④ を

(8) 教室が _____ ければ エアコンを つけて ください。

- ① さむ ② さむい ③ さむくて ④ さむさ

(9) ここの ろうかは _____ やすい ので、気を つけて ください。

- ① すべり ② すべら ③ すべれ ④ すべる

(10) あそこに 来週の よていが _____ あります。

- ① はりて ② はった ③ はって ④ はる

(11) _____ そうな 本を 読んで いますね。

- ① おもしろい ② おもしろ ③ おもしろく ④ おもしろくて

(12) 中田さんは やさいが _____ ようです。

- ① きらいだ ② きらい ③ きらいな ④ きらいの

(13) ひらがなが やつと _____ ように なりました。

- ① かける ② かかない ③ かけて ④ かいだ

(14) 漢字カードは あの たなに もどして _____ ください。

- ① おいて ② あって ③ いて ④ みて

(15) この 漢字は 習った _____ なのに もう わすれて しまいました。

- ① あとで ② まえに ③ ところで ④ ばかり

もんだいⅡ _____ の ところに なにを いれますか。

①・②・③・④から いちばん いい ものを ひとつ えらびなさい。

(4てん×2=8てん)

(1) ミラーさん：「来月まで アメリカに 行ってきます。」

先生：「気を つけて _____。」

- ① いってらっしゃい。 ② いって まいります。
③ おかえりなさい。 ④ いらっしゃいませ。

(2) ブルーノさん：「コップは ぜんぶ _____。」

先生：「じゃあ つぎは これを 洗って ください。」

- ① 洗う ところです ② 洗って しまいました。
③ 洗っても いいですか。 ④ 洗ったら いいです。

もんだいⅢ つぎの 文を 読んで 質問に 答えなさい。答えは ①・②・③・④から いちばん いい ものを ひとつ えらびなさい。

(4てん×3=12てん)

わたしが ペルーから 日本に 来てちょうど 5年になります。今は、中学2年生の 3学期になったところ だから、日本に 来たときは、小学校3年生 でした。時間が たつのは、本当に 早いと思います。最初、ひらがなの「あいうえお」も わからなかったし、名前や 国を 日本語で 話すこともできませんでした。でも、今は たくさん 友だちも できて、日本語で 何でも 話せるし、学校の勉強も 日本語で わかる ように なってきました。

さて、4月に になると、中学3年生に なります。わたしは 高校へ 行きたい と思っています。7月まで クラブも あるので、とても いそがしいです。時間を うまく 使って、勉強しなければなりません。来年、試験を受けるまでに、もっと 日本語が できる ようになりたいです。

日本語の 勉強で 一番 たいへんな ことは、漢字です。漢字は 形が むずかしいので、たくさん 書いて おぼえます。それと、読みかたと 意味も おぼえ なければなりません。

日本語も たいせつですが、高校の 試験には、英語も あるので、英語の 勉強も がんばりたいです。外国語の 勉強では、辞書を使うことが たいせつだ と思います。知らない 言葉が 出てきたとき、わたしは いつも辞書で 調べます。私の 国の 言葉(スペイン語)、日本語、英語の三つができる ようになりたい ので、これからも 勉強を つづけます。

(1) この人(わたし)は 日本に いつ 来ましたか。

- ① 小学校5年生の とき
- ② 小学校3年生の とき
- ③ 中学校1年生の とき
- ④ 中学校2年生の とき

(2) この人(わたし)は 日本語の勉強で 漢字を どう思っていますか。

- ① 一番 むずかしいことだ と思っています。
- ② 形が おもしろい と思っています。
- ③ 読みかたと 意味だけ おぼえよう と思っています。
- ④ あまり むずかしくない と思っています。

(3) この人(わたし)が外国語の 勉強で たいせつだ と思っていることは何ですか。

- ① 国の 言葉を使うこと。
- ② 試験を受けること。
- ③ たくさん 書くこと。
- ④ 辞書を使うこと。

外国人児童生徒教育推進のためのガイドライン

—外国人児童生徒教育コーディネーターの視点から—

発行 平成25年3月

三重県教育委員会事務局小中学校教育課

TEL 059-224-2963